

Google Classroom を活用してプレゼンテーションに能動的に参加する

■ 使用する機器、アプリ等

PC、ワイヤレスマイク、Google Workspace for Education

■ 学習のねらい

- ・情報機器や情報通信サービスの仕組みを聴衆に分かりやすい言葉で発表できる。
- ・他者の発表を通じて、情報機器や情報通信サービスの仕組みについて理解を深める。

■ 学習の流れ（45分）

時間	学習活動
3分 導入	○本時の目標の確認 ○評価方法についての確認 ループリックに沿って相互評価する。
25分 展開①	[発表を行うグループ] ○1人2分でグループ発表を行う(1班5人) [上記以外] ○発表を聞きながら相互評価に取り組む。 ○疑問に思ったことを適宜 Classroom のクラスコメント欄に記述する。
14分 展開②	[1班目質問対応]7分間 ○クラスコメントに寄せられた質問に答える。 ○その場で回答できない項目がある場合は、改めて調査する。 ※信頼できる情報を見つけることができた場合は、その場で答えてもかまわない。 [2班目質問対応]7分間 同上
3分 まとめ	○相互評価シートの提出

■ ココで ICT を活用！

動画1

Classroom のコメント機能を使って発表内容に対する質問を投稿する

情報機器や情報通信サービスの仕組みについて探究し、Google スライドで発表用スライドをグループで作成・発表した。発表後に一人1回以上、クラスコメントに質問を記入し、その質問に対して答える時間を設けた。



動画2

Google Form を活用し、発表内容に対する相互評価を行う

ルーブリックに基づき、発表内容に対する相互評価を行う。

発表を聞いて理解が深まったことについて、短文の自由記述欄も併せて設けている。

A screenshot of a Google Form titled '本日1班目' (Today's 1st Class). The form is for peer evaluation. It includes a dropdown menu for '1人目発表者 出席番号' (1st Presenter Attendance Number) with the value '1' selected. Below this is a section for '1人目_内容' (1st Content) with a '選択' (Select) dropdown. The form contains four radio button options for evaluation: 'S:探究したことの詳細について、分かりやすい。例え話等もあり直感的に分かりやすい。', 'A:探究したことの詳細について丁寧に話ができている。', 'B:探究したことの詳細について話をしているが分かりにくいところがある。', and 'C:全体的に説明の内容が漠然としている。'. At the bottom, there is a '欠席' (Absent) option.

■ ICT 活用のメリット

クラス全員が、質疑応答の場面に公平に参加することができる

生徒一人ひとりに発言の機会を設けることは時間の制約もあり困難であるが、Classroom のコメント機能を活用することで、公平に質問を投稿する機会を設けることができる。また、発言することが得意な生徒であっても、文字ベースで参加することができる。

円滑に相互評価を行うことができる

Google Form を活用することで、評価用紙の配付・回収・集約の作業が不要となり、即時で集約まで行うことができる。

■ 本実践での工夫

情報機器や情報通信サービスの仕組みについて、他者と協働的に探究し、スライドに視覚的にまとめることができた。スライドの作成にあたっては、Google スライドを活用し、グループで協働編集を行った。また、コメント機能を使い、他者の意見を取り入れながら修正にあたった。

活発な質疑応答の時間を設けるために、口頭のやり取りだけでなく、Classroom を活用し、質問内容を残すことで、他者の疑問点から気づきを促すことができた。また、他者の投稿(質問)内容に触れることにより、質問を投げ掛けるスキルの習得にも繋がったと考えられる。

■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

発表に向けた準備、発表後の質疑応答を通じて、情報の科学的な理解を多様な観点から深めることができた。クラスコメントに寄せられた質問に対して、口頭で答えるだけでは、その場限りの学びとなってしまうことが課題である。そのため、クラスコメント内に文字で返信することも大切である。

クラスコメントの文字ベースでのやりとりが「学習の記録」として残ることになり、後からも見返することができるようになる。また、その場で答えられなかった質問に対して、後から詳しく調べて回答することができたり、生徒同士が協力して答えを見つけたり、より深い学びに繋げることも期待される。